

メキシコ

1. 2004年非鉄金属一般概況

(1) 2004年メキシコ経済

2004年のメキシコ経済は、過去3年の低成長期を脱し、米国経済に支えられ再び大幅な成長（GDP成長率4.4%）となった。2004年インフレ率は、2000年以降1桁台に落ち着き、政府目標は上回ったが5.2%と従前に比し落ち着いている。

2004年9月17日、日本・メキシコ間で、FTAの要素を含む日墨経済連携協定（EPA）が締結され、2005年4月1日に発効した。日本にとりシンガポールに次ぐ2番目だが、メキシコでは43番目の協定締結相手国となる。今後の貿易拡大が期待される。

(2) 2004年メキシコ鉱業の動き

経済省は、2004-2005年鉱業法改正において、同省の外局組織である鉱物資源審議庁（Consejo de Recursos Minerales：CRM又はCOREMI）をメキシコ地質調査所（Servicio Geologico Mexicano）に改称する等の改正を行い、2005年4月28日に法案が成立した。

2004年メキシコ鉱業の生産量は、銅、金、銀、フッ素、石膏、鉄等が増加し、鉛、亜鉛等が減少し前年比6.6%増、鉱業生産高は、非鉄金属価格の高騰に伴い、前年比40.8%増（ペソ・ベース）と大幅に増加した。うち非鉄金属は、生産量は前年比3.9%増と増加幅は小さいが、生産高は、モリブデン2.4倍増をはじめ、銅、銀、鉛等の殆どの非鉄金属で数10%増となり、前年比57.9%増と大幅増を確保した。

2004年メキシコ鉱業の輸出入額は、輸出額26.3億（前年17.4億）USドル、輸入額23.7億（前年17.5億）USドルと、2.6億（前年▲0.1億）USドルの貿易黒字だった。うち非鉄金属は、輸出額24.0億（前年15.5億）USドル、輸入額13.9億（前年9.4億）USドルと、10.1億（前年6.1億）USドルの貿易黒字だった。

メキシコの主要非鉄金属鉱山企業は、世界メジャー産銅会社グループ・メヒコ（GM）社と、世界有数の産銀会社ペニョーレス社の2社が突出し、両社とも非鉄金属価格高騰の影響を受け、2004年は各々782百万USドル、92百万USド

ル（ペ社は11.2879ペソ/USドルで換算）と大幅黒字を計上した。

メキシコへの海外からの鉱山開発投資は、100%外資であってもメキシコ法人を設立することで鉱業権を所得し、国内法人と同様の事業展開が可能である。鉱山の探鉱投資は、カナダ探鉱会社が殆どであるが、2004年のカナダの探鉱投資シェアは93%に達し、鉱山開発を含めると75%という。

また、メキシコ政府は、2005年5月に、2005年から2年間で1,300百万USドル効果を期待するチリ政府との間の鉱業協力協定に署名し、その中にはペニョーレス社とチリ・コデルコ社との探鉱協力事業も含まれる、更に、同月、オルティス経済省鉱業総調整官（次官級）が米国を訪問し米国からの投資促進を訴える等、政府は鉱山関係への外資導入に積極的である。

2. 2004年鉱業政策（鉱業法・税制、環境規制）の主な動き

メキシコの鉱業関係法規は経済省が所掌し、鉱業の環境規制は環境省が所掌する。

経済省は、以下の内容等を盛り込んだ鉱業法改正法案を2005年4月28日に成立した。

- ① 同省の外局組織である鉱物資源審議庁（Consejo de Recursos Minerales：CRM又はCOREMI）をメキシコ地質調査所（Servicio Geologico Mexicano）に改称しメキシコ地質情報の提供機関の位置づけを明確化。
- ② 探鉱権を削除し一括して採掘権に、採掘権は従前同様50年以内で50年まで再延長可能。
- ③ インディオ共同体や部落民族等の地元住民の権利を鉱業権よりも優先。（経済省幹部は、鉱業権設定と、地元の開発異議申立のいずれか早い方が優先と説明する。）

今後、経済省幹部は、成立後半年以内に施行規則を整備、更に今後、環境法規を環境省と調整して整備する方向という。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要鉱産物の生産

メキシコの鉱業事情は、メキシコGDPに占める鉱業部門（石油等の炭化水素を除く。）の割合は約1%と埋蔵ポテンシャルに比べて低い。世界第3位の銀の他、第5位のカドミウム、ビ

スマス、亜鉛等、多くの鉱物資源を賦存している。

非鉄金属の生産量は、世界第2位の銀鉱石、ビスマス、世界第5位前後に、鉛鉱石、カドミウム、亜鉛鉱石等の主要生産国であり、銅鉱

石・地金、モリブデン鉱石、マンガン鉱石、金鉱石等の多くの鉱物資源の生産国である。ストロンチウムの原料鉱石であるセレスタイト（コアウイラ州）の世界最大級の生産国でもある。

○メキシコ非鉄鉱物生産量

単位：金額；百万ペソ

	2001 生産量	2002 生産量	2003年		2004年			
			生産量	金額	生産量	増減	金額	増減
金(t)	25.7	23.6	22.2	2,806	24.3	9.7%	3,599	28.3%
銀(t)	3,030.4	3,146.3	2,945.7	5,035	3,085.3	4.7%	7,470	48.4%
鉛(千t)	148.6	138.7	144.3	808	142.4	-1.3%	1,415	75.2%
銅(千t)	349.4	314.8	303.8	6,239	352.5	16.0%	11,726	88.0%
亜鉛(千t)	427.3	431.7	412.3	4,001	373.7	-9.3%	4,875	21.9%
アンチモン(t)	81	153	434	11	595	37.0%	20	80.4%
砒素(t)	2,381	1,946	1,729	15	1,828	5.7%	16	10.6%
ビスマス(t)	1,390	1,128	1,054	73	1,014	-4.7%	73	-0.5%
錫(t)	8	12	21	1	23	9.5%	2	102.9%
カドミウム(t)	1,434	1,388	1,638	23	1,596	-2.4%	22	-6.4%
チタン(t)	4,258	—	—	—	—	—	—	—
モリブデン(t)	5,518	3,427	3,524	447	3,730	5.8%	1,502	235.7%

注：生産量は鉱石中の金属含有量

出典：メキシコ経済省HP

メキシコ鉱山開発・探鉱は、メキシコ中央部から北部で活発であり、南部では環境問題や先住民問題等があり、特に開発は難しい。金はドゥランゴ州とソノラ州合算7割、銀はサカテカ

ス州5割、鉛・亜鉛はチワワ州とサカテカ州合算で各々8割・7割、銅はソノラ州8割以上を産出する。

○メキシコ主要非鉄鉱物の州別生産量（2004年）

	金(kg)	銀(kg)	鉛(t)	亜鉛(t)	銅(t)
全国生産量	21,825	2,569,478	118,482	426,361	405,540
チワワ州	908	264,440	43,379	108,500	9,367
ドゥランゴ州	8,567	411,568	8,590	11,430	799
グアナファト州	1,054	55,550	19	—	18
ゲレロ州	400	35,176	3,313	10,596	175
イダルゴ州	44	17,448	1,331	6,616	254
メキシコ州	718	110,804	5,947	25,947	1,384
ケレタロ州	1,363	24,147	—	—	—
サン・ルイス・ポトシ州	890	101,910	3,791	72,165	18,072
シナロア州	541	4,310	13	—	2
ソノラ州	5,895	105,204	4	—	349,227
サカテカ州	1,186	1,345,130	51,904	191,104	24,944
オアハカ州	46	2,023	13	—	—
コアウイラ州	—	23,789	121	—	—
ミチョアカン州	—	—	—	—	1,290
ナジャリ州	1	25	—	—	—
ハリスコ州	—	—	47	—	—
その他 州	211	67,954	10	3	8

出典：メキシコ経済省HP

(2) 主要鉱産物の輸入

2004年メキシコ主要鉱産物の輸入額は、前年比35.3%増、輸入額23.7億（前年17.5億）

USドルだった。うち非鉄金属は、前年比48.0%増、輸入額13.9億（前年9.4億）USドルだった。

○メキシコの鉱産物輸入額

単位：千USドル

	2003年	2004年	増減
銅かわ	232,982	402,130	72.6%
アルミニウム地金	185,666	231,244	24.5%
錫鉱石	28,615	44,139	54.3%
タングステン鉱石	19,394	28,201	45.4%
ニッケルかわ	18,332	25,847	41.0%
鉄以外の鉱石	123,107	301,718	145.1%
その他金属地金	330,167	356,669	8.0%
非鉄金属 計	941,618	1,394,021	48.0%
金属 計	363,472	478,031	31.5%
非金属 計	446,762	497,626	11.4%
鉱業全体 計	1,751,852	2,369,678	35.3%

(注) 非鉄金属計と内訳不一致は、少量の鉱石及び地金による。

出典：メキシコ経済省HP

(3) 主要鉱産物の輸出

2004年メキシコ主要鉱産物の輸出額は、前年比51.2%増、輸出額26.3億（前年17.4億）USドルだった。うち非鉄金属は、前年比55.3%

増、輸出額24.0億（前年15.5億）USドルだった。

なお、その他鉱石には、モリブデン鉱石が含まれ、大幅増に貢献したと予測される。

○メキシコの鉱産物輸出額

単位：千USドル

	2003年	2004年	増減
銀鉱石	482,320	637,433	32.2%
鉛鉱石	11,566	15,863	37.2%
銅鉱石	58,312	144,728	148.2%
亜鉛鉱石	116,726	162,240	39.0%
その他鉱石	138,041	388,162	181.2%
銅地金	129,250	291,867	125.8%
亜鉛地金	108,102	117,627	8.8%
ビスマス地金	6,185	8,824	10.3%
鉛地金	3,254	4,993	53.4%
その他地金	491,617	629,829	28.1%
非鉄金属 計	1,545,558	2,399,711	55.3%
金属 計	3,263	3,059	-6.3%
非金属 計	189,071	224,471	18.7%
鉱業全体 計	1,737,892	2,627,241	51.2%

(注) 非鉄金属計と内訳不一致は、少量の鉱石及び地金による。

出典：メキシコ経済省HP

4. 鉱山会社（国営会社を含む）活動状況

メキシコの主要鉱山企業は、メキシコ、米国、ペルー3ヶ国で生産活動を行う世界メジャーの産銅会社グループ・メヒコ（GM）社と、メキシコ中心に生産活動を行う世界有数の産銀会社ペニョーレス社の2社が突出しており、両社とも非鉄金属価格高騰の影響を受け、2004年は大幅な黒字を計上した。

（参考）両社詳細は「金属資源レポート 2005年5月号」を参照。

(1) グループ・メヒコ（GM）社（Grupo Mexico, S.A. de C.V.）

① 財務状況

2004年売上高は、第3四半期のSPCC社13日間、MM社17日間のストライキの影響による生産量減にも拘わらず、前年25.9億USドルから42.1億USドル（69%増）へ大幅に上昇した。

2004年営業利益は、前年6.9億USドルから19.5億USドル（182%増）へ、2004年純益は、前年▲0.75億USドルから7.84億USドルへ記録的な黒字を達成した。

2004年純負債額は、前年末24.3億USドルから、2004年末15.4億USドルへ、8.9億USドル（▲36%）減少した。

単位：百万USドル

	2003年	2004年	増▲減 (%)
売上高	2,491	4,206	1,715 (+69%)
営業利益	693	1,952	1,259 (+182%)
当期損益	(▲75)	784	859 (皆増)
負債	2,425	1,543	▲882 (▲36%)
探鉱費（投資）	153	343	190 (+124%)
総売上の鉱業・金属部門比率	77.0%	85.0%	

出典：GM社HP

○負債内訳

単位：百万USドル

	＜2003年末＞			＜2004年末＞		
	負債合計	現預金	純負債	負債合計	現預金	純負債
GM社	80	90	(+10)	15	22	(+7)
AMC社	310	10	300	250	82	168
MM社	1,322	56	1,266	1,041	165	876
SPCC社	349	295	54	289	546	(+257)
ASARCO社	445	15	430	443	25	418
ITM社	1	1	0	0	14	(+13)
GFM社/Ferromex社	479	94	385	478	120	(+358)
全GM社計	2,986	561	2,425	2,517	974	1,543

出典：GM社HP

② 主要鉱物生産高

2004年生産高は、同社の主要生産鉱物である銅の生産が回復し、モリブデン等のその他の

鉱物生産も順調に増加した。特に、モリブデン生産量の増加は、価格が2004年比約200%上昇しており、大幅な売上増に貢献した。

	2001年	2002年	2003年	2004年	増減
亜鉛鉱石(千t)	193,907	131,006	128,760	133,778	5,018
金鉱石(t)	6,244	2,611	1,005	1,049	44
銀鉱石(t)	1,036,104	800,116	592,053	604,048	11,995
銅鉱石(千t)	1,065,778	903,027	834,779	873,450	38,671
鉛鉱石(千t)	—	—	20,884	18,482	▲ 2,402
モリブデン(千t)	13,894	11,695	12,521	14,373	1,852

出典：GM社HP

③ 2004年の主な動き

・SPCC社とMM社の株の相互交換

2004年10月21日、SPCC社は、GM社の子会社AMC社と合併を合意したと発表。即ち、MM社(Minera Mexico)の99.15%権益に見合う67.2百万株分と、SPCC社(Southern Peru Copper Co.)20.9%権益分を相互交換する内容であり、この合意は、2005年3月28日SPCC社の株主総会で正式に承認された。MM社は、SPCC社の傘下に治まることとなった。

これに先立ちGM社は、2005年3月1日、SPCC社全株主に対して特別配当金支給総額1億USドルを配分した。同時に、この承認を得るための条件であったMM社負債を12%減額(1.2億USドルを銀行団へ返済)し、MM社の総負債額は10.4億USドルから9.2億USドルに減少し、合意に至った経緯がある。

SPCC社に関して、合意承認前、GM社は権益率54.2%の筆頭株主、フェルプス・ドッジ社は14.0%であったものが、合意後には、GM社75.1%となり、GM社は銅埋蔵量で世界第2位となり、ドッジ社が3位に転落し、また、ニューヨーク株式市場公開の銅鉱山企業中の資本でも第2位となったとされる。

GM社のSPCC社権益75.1%取得の主要目的は、第一に、往年からの課題であったMM社の巨大負債をSPCC社に分担させる。即ち、MM社は、Cananea鉱山とLa Caridad鉱山の優良2露天掘銅山と、巨大負債を抱えるSan Martin鉱山等の坑内掘銅山部門を持つが、この負債をMM社だけでは返済不可能と判断し、MM社の優良2銅山とSPCC社の資本を加え、坑内掘銅山部門の過去の巨大負債を解消し、かつ、いつでも手放せる体制をとることである。第二は、MM社をSPCC社の傘下に入れ、有益な銅-モリブデン生産をSPCC社一社に統合し、世界的なハイ

レベルの企業を設立することに意図がある。

・組合との和解

2004年10月23日、MM社はメキシコ全国鉱夫・冶金関係組合と円満な合意に達した。MM社は、2005年1月に0.55億USドルでMexicana de Cobre社及びMexicana de Cananea社における5%の参加労働者利権(株式)を買い取るというもの。

2005年1月に支払が行われ、これまで利益還元等の賃金問題を中心にLa Caridad鉱山及びCananea鉱山で恒例化していた労働争議(ストライキ)が、根本的課題解決により無くなることが期待されている。

④ 今後の展望

GM社は、銅埋蔵量で世界第2位、世界非鉄企業ランク10指に入るメジャー企業であり、メキシコに本社を置き、メキシコ、米国及びペルーで鉱山操業を行っている。また、鉄道部門も有す銅を中心にした鉱山ホールディングカンパニーである。

・会社経営の展望

2003年の売上高内訳は、鉱山部門77%(銅59%、モリブデン6%、銀4%、亜鉛4%、金1%、鉛1%、その他2%)及び鉄道部門23%であり、銅は、会社全体で約6割を占め、鉱山部門では約8割を占める。2004年の売上高内訳は発表されていないが、銅価格(約60%増)、銅鉱石に含まれるモリブデン価格(約200%増)の大幅な上昇により、益々産銅会社の色が濃くなっている。

2003年の非鉄鉱物の売却・輸出先内訳は、国内39%、米国39%、ヨーロッパ17%、南米1%及びアジア1%であり、メキシコ経済全体と同様に米国依存が大きく、米国の景気の動向に影響

響を受ける。

GM社は、2004年に過去の損失から脱却し8億USドル弱の純益を確保し、関連子会社も全てが純益を確保した。これは、国際的な非鉄金属価格高騰の影響が大きいですが、2005年3月にSPCC社とMM社の株式の相互交換を行う等、企業体質強化、経営改善に積極的に取り組んでおり、将来的にも非鉄メジャー企業としての地位は揺るがないと考える。

特に、約10億USドルの負債を抱えるMM社の株式99.15%を、SPCC社の株式と相互交換し、負債をSPCC社に背負わせる戦略や、税金対策等、会社経営戦略に積極的に取り組む力強さが感じられる。

・鉱山の展望

資源生産量は、メキシコにおいて、銅の露天掘大型鉱山として、1鉱山で年産10万t以上の銅を産出するCananea鉱山とLa Caridad鉱山を有し、両鉱山とも労働争議(ストライキ)が恒常化する鉱山であったが、2005年1月に労働者が所有する株式を買取、最大の懸案の解消により、今後、順調な生産活動により益々の増産が期待される。

資源埋蔵量は、メキシコにおいて、70年以上を有す操業中のCananea鉱山や、大規模な埋蔵量を有すBaja California州El Arco未開発銅山等があり、また多くの鉱山のマインライフを20年以上確保している。更に、ペルーでは、SPCC社の権益増加(54.2%→75.1%)による埋蔵量の増加に努めることによる世界第2位の

埋蔵量所有企業になる等、数十年規模の埋蔵量を確保し、将来的に不安は感じられない。

売上の2割程度(2003年23%→2004年15%)を占める鉄道部門は、資源生産量が増加すれば、鉱石輸送も連動して増加するため、今後の資源生産量次第である。なお、2004年は、非鉄金属価格高騰や増産等により、鉱山部門の売上比率が大幅に上昇した。

(2) ペニョーレス社 (Industrial Peñoles, S.A. de C.V.)

① 財務状況

2004年売上高は、約3億USドル増の14.8億USドル、純益は、1億USドル以上増の0.9億USドルを達成した。

これは、非鉄金属価格高騰(金12.6%増、銀36.6%増、鉛72.1%増、亜鉛26.6%増)、為替益4.64%増、非鉄金属生産量増(銀5.5%増、鉛3.1%増、亜鉛5.4%増)、工業品売却増(マグネシウム酸化物44.1%増、硫酸ナトリウム4.7%増)による。

2004年末現在の負債額は、5.0億USドルに達する。これは、1997年に固定金利8.25%で、銀行融資3.8億USドル及びソノラ州Milpillas銅鉱山建設のための第一次融資0.8億USドルの借入金に大部分が起因する。この負債総額は全資本金の32.9%に匹敵する。

この返済は、2006年から四半期毎0.152億USドル、年間0.608億USドルの支払が生じる。

単位：百万USドル

	2003年	2004年	増▲減(%)
売上高	1,166	1,485	319(+27%)
当期損益	(▲14)	92	106(皆増)
負債	約860	約500	▲約360
探鉱費(投資)	23	32	9(+39%)
総売上の鉱業・金属部門比率	85%	88%	

出典：ペニョーレス社HP

② 鉱物生産高

2003年3月1日、50年弱操業し計1百万tの亜鉛を生産したHidalgo州El Monte鉱山(主に亜鉛精鉱産出)が休山、更に9月15日、27年間操業し年間60万t鉱石を産出したLos

Torres社所有のGuanajuato州の全4鉱山(主に銀・金精鉱産出)が休山した。両社鉱山の一時休山の主要理由は、経済的埋蔵量欠乏及び非鉄価格低迷に起因する。

これらの鉱山休山に起因した生産減、

Fresnillo 鉱山機械入替による 10 日間操業停止、Naica 鉱山及び Francisco. I. Madero 鉱山の品位低下による生産減等と厳しい状況により、

2004 年の生産量は、銀、鉛、亜鉛、金の主要鉱物が全て減産となった。

	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年
金鉱石 (t)	8.5	9.9	10.4	9.7	9.6
金地金 (t)	18.3	24.4	29.9	27.2	21.4
銀鉱石 (t)	1,194	1,268	1,493	1,373	1,260
銀地金 (t)	2,098	2,111	2,228	2,184	2,281
鉛鉱石 (千 t)	74.4	79.6	86.8	81.3	54.2
鉛地金 (千 t)	161.7	141.6	125.7	129.7	131.6
亜鉛鉱石 (千 t)	173.2	217.2	266.0	235.1	209.2
亜鉛地金 (千 t)	126.8	195.2	209.0	218.5	232.5
銅鉱石 (千 t)	9.5	12.6	11.8	10.6	11.8
銅地金 (千 t)	7.7	8.1	7.9	7.7	8.1
カドミウム(千 t)	0.7	0.7	0.8	0.9	0.9
ビスマス (千 t)	1.1	1.4	1.1	1.1	1.0
染料鉛 (千 t)	165.9	160.7	148.6	157.7	151.3

出典：ペニョーレス社HP

○鉱山別主要非鉄金属の生産割合 (2003 年)

	< 金 >	< 銀 >	< 亜鉛 >	< 鉛 >
La Herradura	45.4%	—	—	—
La Cienega	39.1%	3.8%	—	7.9%
Fresnillo	7.7%	66.0%	5.5%	10.0%
Tizapa	4.2%	6.7%	8.4%	6.0%
Naica	0.2%	9.4%	14.8%	56.8%
Sabinas	—	7.3%	11.6%	8.7%
Francisco I. Madero	—	2.4%	35.0%	9.5%
Bismark	—	—	19.2%	—
Los Torres	3.4%	3.6%	—	—
その他	—	0.8%	5.5%	1.1%

(注) Los torres 社管轄 4 鉱山は 2003 年 9 月 15 日を以て一時休山。

○鉱山別生産量、埋蔵量及び品位 (2003 年)

	< 鉱石生産(千 t) >	< 埋蔵量(千 t) >	< 平均品位 >				
			Au(g/t)	Ag(g/t)	Pb(%)	Zn(%)	Cu(%)
Fresnillo	1,525	13,674	0.7	594	0.67	1.09	—
La Cienega	508	7,849	7.17	161	1.35	1.82	—
La Herradura	8,319	45,446	1.0	—	—	—	—
Naica	876	4,276	0.13	208	6.03	5.14	0.29
Sabinas	1,003	11,353	—	139	1.07	4.20	1.08
Bismark	487	1,705	—	27	0.26	13.7	0.37
Tizapa	420	1,463	—	303	1.93	6.84	0.36
Francisco I. Madero	2,332	29,346	—	39	0.71	4.23	0.17

○非鉄金属販売内訳（2004年）

〈販売先〉		〈輸出国内訳〉		〈非鉄金属別販売内訳〉	
国内販売	44.7%	米国	74.5%	銀	36.7%
輸出	55.3%	日本	10.1%	金	21.6%
		英国	2.9%	亜鉛	16.9%
		その他	12.5%	鉛	8.8%
				その他	16.0%

（出所）ペニョーレス社HP

③ 2004年の主な動き

・ペルー・ミルポ鉱山の51%株式買収を失敗

2004年9月28日、ペニョーレス社はペルー株式市場で一般公開されている同国企業 Compañía Minera Milpo, S. A. A.（ミルポ）社権益100%の内51%分、1.08億USドルの市場買収を試みたが、最終的には合意に至らず数%分の138,950株取得に留まった。

なお、ミルポ社は、ペルー及びチリにおいて亜鉛、鉛、銅精鉱を産出しており、2003年の各精鉱の生産量は、亜鉛16.8万t、鉛4.2万t、銅0.4万tを生産し、0.64億USドルの売上を得ている。

・鉱区整理の動きが活発化

2005年3月、ゲレロ州Oro de Mezcala金探査案件（同社権益56%）をカナダ・Goldcorp社へ70百万USドルで売却、チワワ州Pinos Altos金探査案件をカナダ・Agnico Eagle Mine社へ65百万USドルで探鉱権の譲渡契約合意。一方、世界かつ同社最大のサカテカス州Fresnillo鉱山の隣接鉱区をカナダ・MAG Silver社と共同探鉱契約合意。

④ 今後の展望

ペニョーレス社は、鉱山業に留まらず、化学工業や水供給サービス等まで広範囲な事業を行う多角的企業であるが、鉱業部門が中心的役割であり、全社売上の約9割が金、銀及び亜鉛の生産、製・精錬に依存し、特に、銀は、世界で最大級の生産企業であり、世界の5～10%の銀生産をする。非鉄金属価格の影響が多岐であることは言うまでもない。

・会社経営の展望

2004年は、過去2年連続した0.1億USドル程度の赤字から、一転して1億USドル程度の利益を得た。アナリストや専門家の多くが、少

なくとも2005年半ばまでは非鉄金属価格は高止まると見込んでおり、その影響により短期的には安泰との見方もできるが、同社は、借入金返済が2006年から年額0.6億USドルを3か月毎に償還必要であること、後述のメインライフも十分に確保されてないことから、中期的には課題を抱える。

・鉱山の展望

〈稼働中鉱山〉

現在8鉱山で操業、主要な非鉄金属の生産は、銀Fresnillo鉱山、金La Herradura鉱山及びLa Cienega鉱山、亜鉛Francisco I. Madero鉱山の4鉱山に偏り、特に全社中の銀生産の7割弱を占めるFresnillo鉱山は最重要である。

全稼働8鉱山とも埋蔵量規模に短期限界（La Cienega鉱山を除いて全て10年以内）があり、常に坑内及び周辺域探鉱を余儀なくされる。

〈開発準備中鉱山等〉

ミルピージャス鉱山は、同社が初めて取組む銅産出鉱山であり、かつSX-EWプラントである。同鉱山は2.3億USドルの投資額が推定されており、2005年10月からの試験操業開始、2006年生産開始で年間6万t（2006年は3.4万t）の生産計画であり、この売上は全社売上の約1割を占め、成功の可否は社命を問うと言われる。

探鉱中の案件では、Codelco社とのCananea鉱山周辺探鉱やペルーでの探鉱も開発に至る段階ではない。

5. 鉱山・精錬所状況

(1) グループ・メヒコ社

同社の子会社MM（Minera Mexico）社が、ソノラ州にラ・カリダ（La Caridad）製錬所及びサン・ルイス・ポトシ州にサン・ルイス・ポトシ製錬所の2ヶ所を有し、銅中心の製錬を行う。

同社の子会社コブレ・デ・メヒコ (Cobre de Mexico) 社が、メキシコ市にコブレ・デ・メヒコ製錬所を有し、電気銅の精錬を行う。

(2) ペニョーレス社

同社が、コアウイラ州トレオン市に、MET-MEX ペニョーレス製錬所及び Aleazin ペニョーレス製錬所の2ヶ所を有し、金、銀、亜鉛、鉛の製錬を行う。

6. 我が国との関係

(1) Tizapa (ティサパ) 坑内掘鉱山 (メキシコ州)

ティサパ (Tizapa) 鉱山は、ペニョーレス社 51%、同和鉱業 39%、住友商事 10%の権益からなる日本・メキシコ共同開発鉱山であり、高品位亜鉛を主体に、銀、金の貴金属が含まれている。亜鉛精鉱の全生産は日本 (同和鉱業株) へ輸出され、銀・金を含む鉛精鉱は全て Met-Mex

Peñoles 社 (Durango 州 Torreon) へ国内輸送される。

2003 年は、鉱山地盤の不安定及び米国への出稼ぎによる鉱夫不足問題等により、生産量への影響を受けた。2004 年は、地表探鉱試験 2,000m を実施した。

(2) 我が国への輸入

我が国のメキシコからの輸入は、銀地金、モリブデン鉱石、亜鉛鉱石、セレストタイト等の多くの鉱物資源を輸入し、特に、銀地金は我が国輸入量の約3割を占める重要な供給国である。

2004 年メキシコから見た我が国への全輸出品目別では、モリブデン鉱石が前年の第 10 位 (42 百万 US ドル) から第 6 位に上昇し 91 百万 US ドルを記録、銀鉱石は前年の第 9 位 (46 百万 US ドル) から第 8 位に上昇し 86 百万 US ドルであった。

(2005. 5. 26 / メキシコ事務所 権藤 浩)